

(1) 単元名：心の通い合いを読む(物語) 「おにたのぼうし」

(2) 本時の目標：○女の子とおにたの気持ちや行動を読み取る。

☆文中の子どもの名前はすべて仮名である。



【学校概要】国頭村立安波小学校

1年生3名(女の子3名) 2年生1名(男の子) 複式学級
3年生2名(女1 男1) 5年生2名(男1 女1) 複式学級
校長・教諭2名・養護教諭・用務員司書計5名(教頭不在)
国頭村の東海岸、辺土名より約40分、ひっそり静かな山間の安波区、限界過疎地域と称しても言い過ぎではない地域に在る学校である。「複式学級で学び合いの授業は成立するか?」私個人の研究テーマでもあり、国頭村のへき地学校のすべての先生方の挑戦がここにある。特に安波小学校は日頃より校長先生を中心に校内で勉強会を重ね、互見授業を日常的に行い学びの授業に取り組んでいる。



写真①



写真②

左の写真①②、国頭村として掲げた学びの理念が。職員室の職員のテーブルにさりげなく置かれていた。さらに、職員室の棚の上にはいくつもの「学び」に関する本が並べてある。中を開くと校長先生の付箋やメモがいっぱいである。へき地校のかわいい子ども達の静かな声が学校風景を暖かくする。何度訪れても、心癒される学校である。

【11:50 静かに授業開始】 教師も子ども達も、ゆっくと身構えず自然に入る。(いい空気を感じる) 前時を振り返る写真③、時間をかけず2分で終わる。おにたが、節分の日に「人間っておかしいな。…」



写真③

の言葉を残して前のお家を出て、新しいお家を探しに出た(三)の場面が本日である。11:52 教師ははじめの読みを「黙読で」を指示した。次に各々の音読、さらに指名読み(全員)。11:58 全員による一斉音読で読み終了。

さて、計4回読ませたことになるがそこまで読みこぼれた教師の姿勢をどう見るか?である。約10分間の営みであるが、子ども達にはまったく飽きている様子は伺えない、むしろ何かを「分かつよう」として一生懸命テキストの対話が繰り返されたような気がした。さらに指名読みの際には、たどたどしい読みをする男の子に、女の個の優しい手助け(関わりが)伺えた。



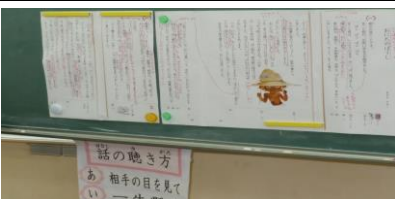
写真④



写真⑤

安心して授業に参加している。信頼の空気に教室が包まれている。「なんて幸せな子ども達だ」「学びの共同体」理念、安心してすべての子どもが参加できる授業とは?の言葉が思い出される人と人が「本物の信頼」でつながるところなのである、の手本のような。写真⑤の女子は音読後、教師の指示はないが勝手に書き込みを始めためた。書き込みはすでに自由にされていた。読みながら、「聴きながら」自分の気づきを大切に、次への対話の準備がなされていた。・・・読むことによってテキストとの関わりが深まる。(読ませ方の工夫)

安心して授業に参加している。信頼の空気に教室が包まれている。「なんて幸せな子ども達だ」「学びの共同体」理念、安心してすべての子どもが参加できる授業とは?の言葉が思い出される人と人が「本物の信頼」でつながるところなのである、の手本のような。写真⑤の女子は音読後、教師の指示はないが勝手に書き込みを始めためた。書き込みはすでに自由にされていた。読みながら、「聴きながら」自分の気づきを大切に、次への対話の準備がなされていた。・・・読むことによってテキストとの関わりが深まる。(読ませ方の工夫)



前時までのテキストも全面黒板に張り出されていた。今日はこれに続く。子ども達の学びの深まりの跡がしっかりうかがえる資料だ みんなの学びの跡が見える配慮は大切にしたい。

12:00 気づいたこと思ったことの共有。教師が声をかけるまえに女の子は手を挙げて「話させて」を訴えていた。当然教師の「どうぞ」の声がかかる。安心した笑顔がこぼれる。誰よりも先に話したかったのだろう。仲間も認めている、「かのかんさんからどうぞ」の視線が向けられる。教師のテキストへのつながり、仲間への「つながり」をつくる発言がよかった。どこからそう思ったの:みんなはどう思う。:どうということもう一回話してくれる。「教師はあまり多くを語らず」の心がけがありありと伺えた。子ども達に「話したい」の積極性をつくったのは教師である。





写真⑥



写真⑦



写真⑧

12:00 みんなで女の子とおにたについて語る。

写真⑥、共有開始直後の様子である。かのんさんの発言の後も語り合いは続く。話をまとめる話し合い活動でもなく。分かったことを話さないでもない。静かに淡々と、互いに感じたこと、思ったことを、認め合いながらの息づかいが交わされる。実にしっとりしている。

自分の言葉で『聴き合う・訊き合う』が教室にこだまする。教師の説明は一切ない。教師はひたすら「聴く」、「つなぐ」、「もどす」である。お話の状況把握につまずき仲間には、仲間で説明してくれる。語り始めて言葉に躓く子には5年生のわかさんが必ず手を差し伸べる。美しい授業光景がしっとりと流れる。5年生のわかさんは、これまでまじめで静かでおとなしい子の印象が強かった(担任も認める)。しかし、今日の授業では積極的に仲間に関わり、強いては仲間を学びの深まりに導いてさえもいるかのように見えた。「わかさんの心の中で何かが起こった。」一概に「学びの共同体」の理念や授業のおかげとは言えないが、この子の心の中で何かが起こったことだけは確かである。

写真⑦、3年生のしょうたさんの手がテキストに向けられた、この瞬間も仲間はじっと見つめ、話を聴いている。しょうたさんの感性をみんなで共有できたところだ。

ほのぼのとしっとり深まる学び合いが12:28までつづく、当然途中で投げ出す子や、あきらめてしまう様子はまったくない。

【 学びのきっかけや深まりを作った教師の発問 ◎ 】

◎ どうしてお母さんに心配かけたくないの

◎ 「ははあーん」は何に気づいたの

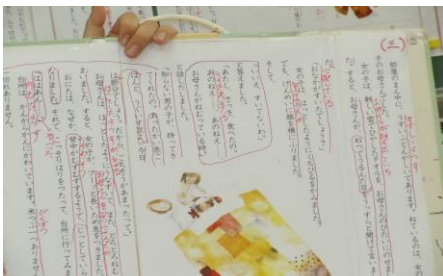
◎ 貧乏な家ってどんなイメージ

◎ おにたはどう感じただろう(セリフから)

※ 教科書を見ればすぐ答えが見つけれられるような発問ではないところに学び合いが発生する。「お母さんに心配かけたくない女の子。」「お家の様子を天井から見ているおにた。」子ども達は思い思いに好きなように物語を楽しみ、登場人物に親しんだ。

「文学を楽しむ・文学に親しむ」とは?…少し見えた授業でした。

子ども達は、自分なりの物語の解釈を遠慮なく「語り、聴き合った。」教師は時々、文中のせせりふの部分だけを音読させるという行為を何度か試みていた。なんと音読するたびに子ども達の声に感情が込められてきているような気がした。



見よ、書き込みされた拡大教科書！子ども達の思い、思考した跡がしっかりと伺える。明日の資料にもなる。

12:28教師：「みんなが感じたように音読してみよう。」

明らかに授業当初の音読とはまったく違った。「気持ちがかもった。」である。

・けんめいに首を横にふりました…明確に読む

・女の子がフーと長いため息をつきました…安心した様子しっとり読む

・「ははあーん」…おにたになって読む

・台所は、かんからかんいかわいています。米粒一つありません。大根一切れありません

※ 「台所は…」子ども達の声に一番力がこもった文です。どうかにかけてあげたい。おにたどうにかして。子ども達の思いが見えた。一番力がこもったのはたかみちさんであった。

【 2枚の写真「眼差し」 】

教師の子どもを見つめる眼差しである。

この子達を絶対に孤立させない、単に見守という言葉だけでは言い表せない教師の眼がある。言って聞かせようという眼ではない。

「何でも話してごらん、すべて聴いてあげるよ。」無言の眼差しである。授業中も給食時間も学校生活のすべてで、内間先生のしっとりとした「眼差しを」感じる事ができた。



H先生ありがとうございました。今年は何かと時間がつかれず6月の集合学習以来の授業観察でした。安波小の校長先生をはじめとする「学びの共同体」理念の実践への取り組みには、いつも感心しています。

さらに、校長先生の思いを受け奈々子先生と晃先生の授業実践にも頭が下がる思いです。先生方の挑戦の影で一番いい思いをしているのが世界の宝「子ども達」であることにほんとうに感謝します。

◎ 子どもをつなぐ。テキストとつなぐ。もう一つ、社会(自分の生活)とつなぐ。

あらゆる教科であらゆる場面にチャンス、タイミングがあります。心がけていると必ず見えてくると思いますが、がんばってください。